

論文要旨

研究目的：

国際オリンピック委員会（IOC）が主導するオリンピック・ムーブメントの基本理念には、その柱の一つとして「環境」が掲げられている。この背景には、1990年代に国際社会における環境保護対策の指針が提案されたことがある。

上記のようにオリンピック・ムーブメントと環境問題の関わりを1990年代以降の国際的動向に求める指摘がある一方、最も初期の事例は1972年に開催された第11回オリンピック冬季競技大会（札幌大会）においてみられたとされる。札幌大会では、スキー競技会場の一つとして恵庭岳滑降競技場が建設された。この建設が決定するまでには、自然保護の観点から建設をめぐる議論がなされた。大会終了後には、競技施設を撤去し跡地に植林を講じる恵庭岳滑降競技場復原工事が実施された（恵庭岳復原工事）。その実施を決定するに至る議論では、滑降競技場建設地を恵庭岳から変更することも含めた検討がなされた。そこで本研究では、競技場建設に関する準備段階から、恵庭岳復原工事の実施を決定するに至る一連の議論（恵庭岳滑降競技場建設問題）の詳細を明らかにする。

本研究が恵庭岳滑降競技場建設問題に着目した背景には、3つの研究動向がある。第一に、この問題には、歴史学的研究としてその詳細を検討する余地が十分に残されていることである。第二に、札幌と同時期の立候補都市であるカナダのバンフで発生した類似の問題との比較検討がなされていないことである。第三に、オリンピック・ムーブメントの担い手が多様化する時代にあつて、この問題を非スポーツ関連組織やその関係者などによる市民運動との交差点として捉える視点が先行研究にはみられないことである。

本研究では、以下の3点に着目し、恵庭岳滑降競技場建設問題の詳細を明らかにする。

- （1）恵庭岳滑降競技場建設問題に関する新聞報道
- （2）札幌大会組織委員会と北海道自然保護協会における議論
- （3）滑降競技場建設地の変更要請をめぐる問題

また、上記検討結果とバンフにおける議論を比較しながら、1）当時のIOCによる環境問題に対する見解および具体的対応、2）1960年代における環境保護に関するムーブメントが与えたIOCおよびそれが主導するオリンピック・ムーブメントへの影響、の2点についても考察を行う。

研究方法：

本研究では主に歴史学における研究手法の一つである史料分析を行った。上記（1）～（3）の検討方法は以下の通りである。

- （1）当時の市民に提示された情報や世論に着目し、北海道新聞、朝日新聞および読売新聞の検討を行った。対象とした時期は、競技場建設地が恵庭岳に決定した時期（1962年4月）から札幌大会開催時期（1972年2月）とした。
- （2）札幌大会組織委員会（組織委員会）と北海道自然保護協会（協会）における議論はどのようなものであったか、という観点から、組織委員会の議事録と協会の会議記録を検討した。対象とした時期は、札幌大会招致委員会の設立時期（1965年5月）から札幌大会開催時期（1972年2月）とした。
- （3）滑降競技場建設地の変更要請に対しIOCはどのような対応をしたのか、またIOCとJOCもしくは組織委員会における交渉はどのようなものであったか、という観点から、IOC理事会および総会の議事録と、当時のIOCと組織委員会による往復文書を検討した。対象とした時期は、競技場建設地

が恵庭岳に決定した時期（1962年4月）から国の建設許可が下りた時期（1968年5月）とした。

結果および考察：

（1）恵庭岳滑降競技場建設問題に関する新聞報道

恵庭岳滑降競技場建設問題では、協会の理事長らによる滑降競技場建設地の変更要請が行われていた。その一方で、この問題は、競技場建設に関することに留まらず、それに付随する交通輸送道路の建設にも及び、この建設に反対する意見や声明を確認することができた。また、先行研究では触れられてこなかったスポーツ関連組織等による競技場の存置を要望する動向や、国際スキー連盟（FIS）と札幌大会組織委員会におけるコースの延長に関する交渉があったこともうかがえた。

札幌大会の開催権獲得後、国内で高まりはじめた自然保護への関心と並行して恵庭岳滑降競技場建設問題への関心が寄せられたことがうかがえた。しかし、その一方で、スキー関係者や近隣都市の市民は、自然保護よりも観光産業の発展などオリンピックの開催による恩恵を重視していた。すなわち、北海道行政、組織委員会、競技連盟および協会の間では、オリンピック大会開催によるスポーツ施設の充実や経済的利益の創出か、それとも自然保護か、という意見の相違があった。

（2）札幌大会組織委員会と北海道自然保護協会における議論

競技場建設の是非に関する議論は組織委員会と協会に限定されておらず、北海道行政が協会の見解を組織委員会に伝達していた経緯がみられた。また、組織委員会、協会、および北海道行政の決定に影響を与え得る人物の存在があった。このことにより、協会が提示した最大限に自然保護に配慮した恵庭岳の使用を求める意向や、競技設備の撤去および跡地への植林は、北海道行政などによる支持や仲介、人的関係による影響によって、組織委員会の建設計画に反映された。

さらに、競技会場への交通輸送道路の建設についても焦点が当てられていた。その中でも支笏湖周辺計画路線の区間は、協会が自然保護の観点から明確に反対の意向を示した場所であった。このことから、自然保護の観点からみれば、組織委員会には当然のことながら競技施設に付随する関連設備においても自然保護の措置を講じた建設を行う必要性が求められていたといえる。

（3）滑降競技場建設地の変更要請をめぐる問題

滑降競技場建設地の変更要請への対応に関する交渉は、IOC会長と組織委員会会長および事務総長との往復文書を通じた意見交換として行われた。その一方で、IOC理事会および総会で触れられることはなかった。また、変更要請へのIOCの対応は、IOC会長の判断で行われたものであった。この背景には、カナダの住民や環境保護団体などがバンフでの開催に対し抗議を行った結果、IOC内部においてIOC会長およびその他委員数名がバンフでの開催を回避すべきということを示唆した経緯があった。IOC会長は、恵庭岳の使用に対しても抗議を受けたことによって、札幌大会開催への影響を懸念し、組織委員会に問い合わせた。組織委員会は、国内での折衝の末に競技場を仮設とする条件を受け入れることによって、滑降競技場建設地の変更を避けた。

また、変更要請へのIOCによる具体的な対応は、環境問題を解決するために自らが積極的に関与することではなく、組織委員会に対して現存する抗議行動の沈静化を求めたことであった。当時のIOCは、環境問題に対して自ら関与しないどころか、自然保護のための具体的な方策を講じるよう喚起するわけでもなく、むしろ変更要請や抗議行動の存在をオリンピック・ムーブメントの推進を脅かす敬遠すべき問題として捉え、IOCに対する抗議行動の拡大を阻止するために、その危険性が潜在する立候補都市に開催権を与えぬよう伏線を敷くか、もしくは開催都市の大会組織委員会に対応を迫った。

まとめ：

札幌大会の開催準備期には、大会組織委員会、環境保護団体および行政による環境保護を図るための連携や妥協点の探求がなされ、競技設備を撤去し跡地への植林を講じるオリンピック史上初の環境保護対策が実施された。この背景には、環境保護団体の関係者らがIOCに対し問題提起したことによって、滑降競技場建設地としての恵庭岳の使用の是非が問われたこともあった。一方で、バンフでは政府を後ろ盾にしながら少数意見を圧殺するかのような姿勢がみられた。IOCはこれを問題視し、非民主的な招致活動を展開する立候補都市での開催を回避すべきという見解をもっていた。これらのことから、当時のIOCは、異なる理念を持つ人々や利害が相反する人々が、多様な意見をどのようにすりあわせ、どのような結論を見出すのか、という民主的な手続きに無関心ではなかったといえる。

その後、札幌やバンフにみられたような1960年代における環境保護団体等によるムーブメントは、大会への抗議運動というかたちで1970年代から1990年代においても大会の招致活動や開催を契機として断続的にオリンピック・ムーブメントに影響した。これは後に、IOCが環境問題への積極的関与を公約する契機となったが、それまでにおよそ30年という時間が必要であった。

恵庭岳滑降競技場建設問題には、これまでのオリンピック・ムーブメントにおける環境保護対策の先駆的事例としての評価だけではなく、多様な意見をすりあわせ、妥協点を探求し、「競技場建設と環境保護の両立」を考慮した上で意思決定を行ったという点において、その特殊性があったといえる。しかし、オリンピック史上初の環境保護対策は、時代的制約もあり、近年のオリンピック・ムーブメントが目指す水準には到達していない。恵庭岳滑降競技場の跡地は、現時点では競技場建設着工以前の状態で復原されたとはいえない状況にあり、かつ今後の経過予測については相反する見解が存在する。恵庭岳復原工事の成否や必要性については、およそ半世紀を経た現在においてもその判断が困難である。

それでもなお、恵庭岳滑降競技場建設問題は、オリンピック・ムーブメントにおける環境問題を顕在化させ、環境保護の困難さ、複雑さ、そして多様な意見を尊重した意思決定の重要性を如実に示すものであった。この問題は、今日のスポーツおよびオリンピック・ムーブメントにおける環境保護、延いては積極的な取り組みが求められている持続可能性の推進に関する意思決定の手続きに示唆を与える教訓的なレガシーであるといえよう。

キーワード：

環境保護、持続可能性、レガシー、多様化

Environmental Conservation, Legacy, Sustainability, Diversification